

家庭部門の CO₂ 排出実態統計調査における
平成 29 年度調査結果（確報値）と
平成 30 年度調査結果（速報値）の主要項目の比較
（参考資料）

令和元年 9 月

環境省地球環境局
低炭素社会推進室

1 はじめに

環境省は、家庭部門の詳細な CO₂ 排出実態等を把握し、地球温暖化対策の企画・立案に資する基礎資料を得ることを目的に、平成 29 年度から、統計法に基づく一般統計調査として、家庭部門の CO₂ 排出実態統計調査を実施している。

本資料は、平成 29 年度の調査結果（確報値）と平成 30 年度の調査結果（速報値）の主要項目について、比較したものである。

なお、平成 30 年度調査確報値の公表の際に、両年度間の詳細な分析を行う予定となっている。

2 利用上の注意

数量項目（CO₂ 排出量、エネルギー消費量、機器の使用台数等）では、特に断りのない限り、使用していない世帯を含めて算出している。

本資料の構成比の内訳を合計しても四捨五入の関係で 100%とならない場合がある。

電気の CO₂ 排出係数について、平成 29 年度調査結果（確報値）、平成 30 年度調査結果（速報値）ともに平成 29 年度の値を適用している。なお、平成 30 年度調査の確報値では、平成 30 年度の電気の CO₂ 排出係数を適用する予定となっている。

電気のエネルギー消費量は、二次換算（1kWh=3.6MJ）である。

本調査結果における世帯当たりエネルギー種別 CO₂ 排出量、消費量及び支払金額においては、ガソリン、軽油を含まない。

本調査では、廃棄物と水道による CO₂ 排出量を調査・推計対象としていない。

3 世帯当たり年間エネルギー種別 CO₂ 排出量

世帯当たり年間 CO₂ 排出量は、平成 29 (2017) 年度が 3.20 t-CO₂/世帯・年、平成 30 (2018) 年度が 3.04 t-CO₂/世帯・年 (前年度比 5.0%減) である。

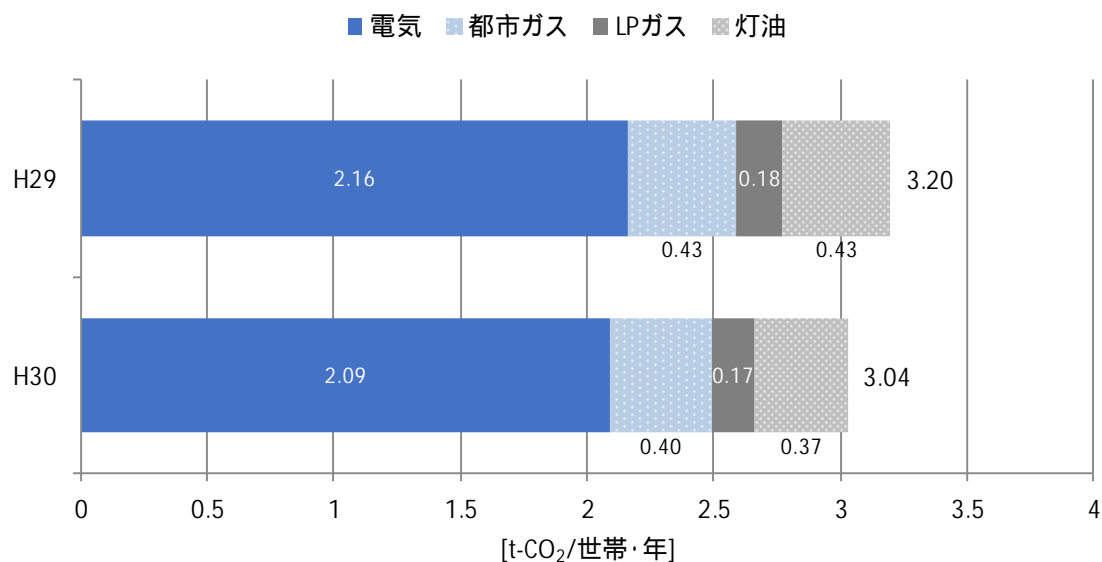


図 1 世帯当たり年間エネルギー種別 CO₂ 排出量の推移

(参考) 世帯当たり年間エネルギー種別消費量

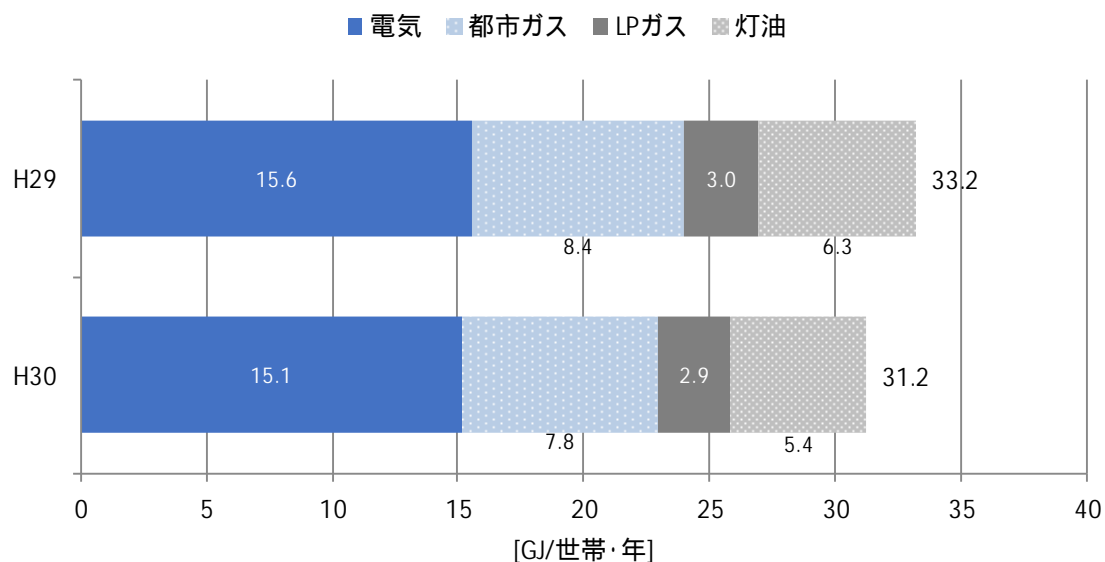


図 2 世帯当たり年間エネルギー種別消費量の推移

4 地方別世帯当たり年間エネルギー種別 CO₂ 排出量

平成 29 年度と平成 30 年度の調査結果を比較すると、10 地方すべてで世帯当たり年間 CO₂ 排出量が減少している。

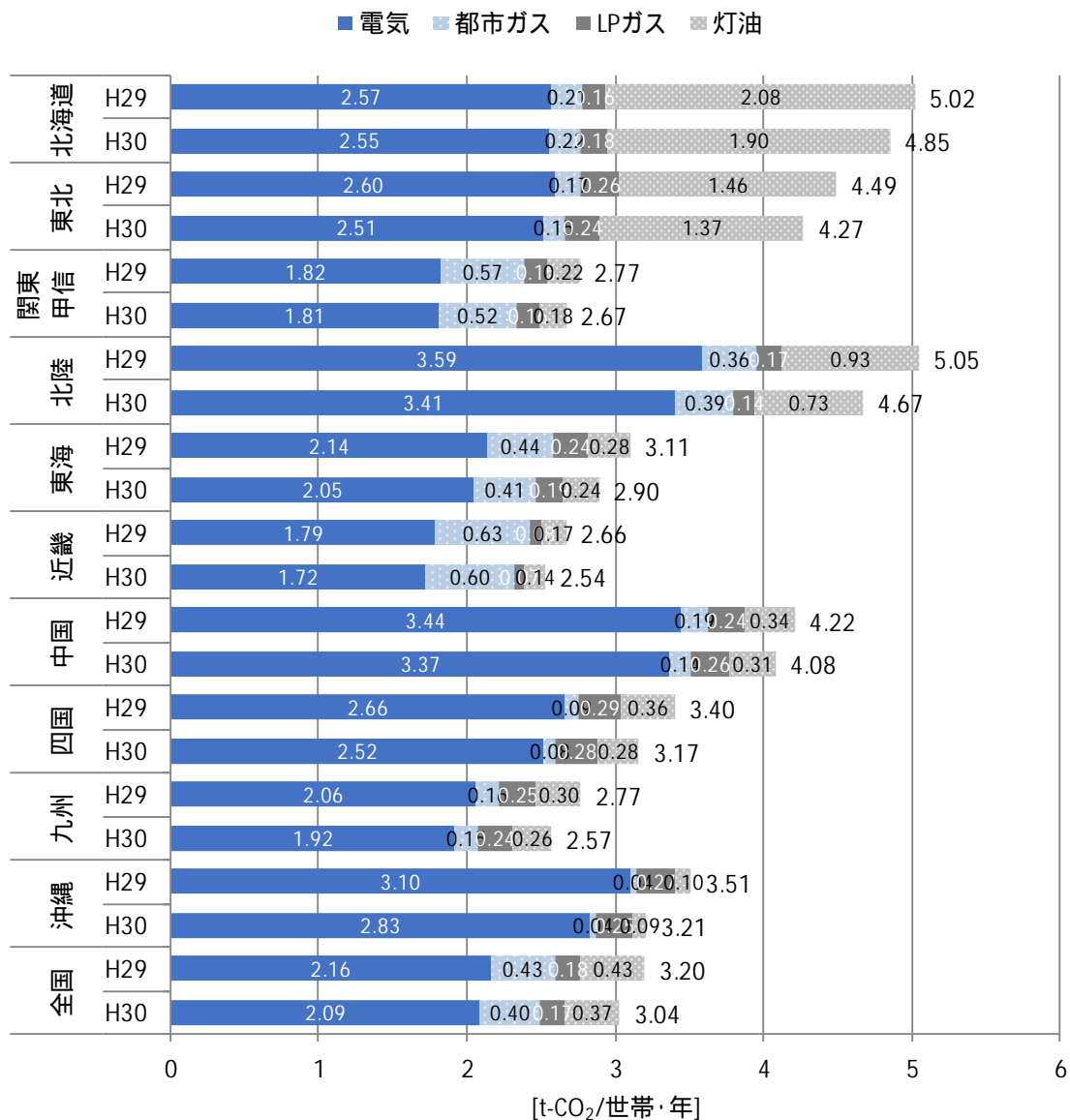


図 3 地方別世帯当たり年間エネルギー種別 CO₂ 排出量

5 世帯類型別世帯当たり年間エネルギー種別 CO₂ 排出量

平成 29 年度と平成 30 年度の調査結果を比較すると、すべての世帯類型で世帯当たり年間 CO₂ 排出量が減少している。

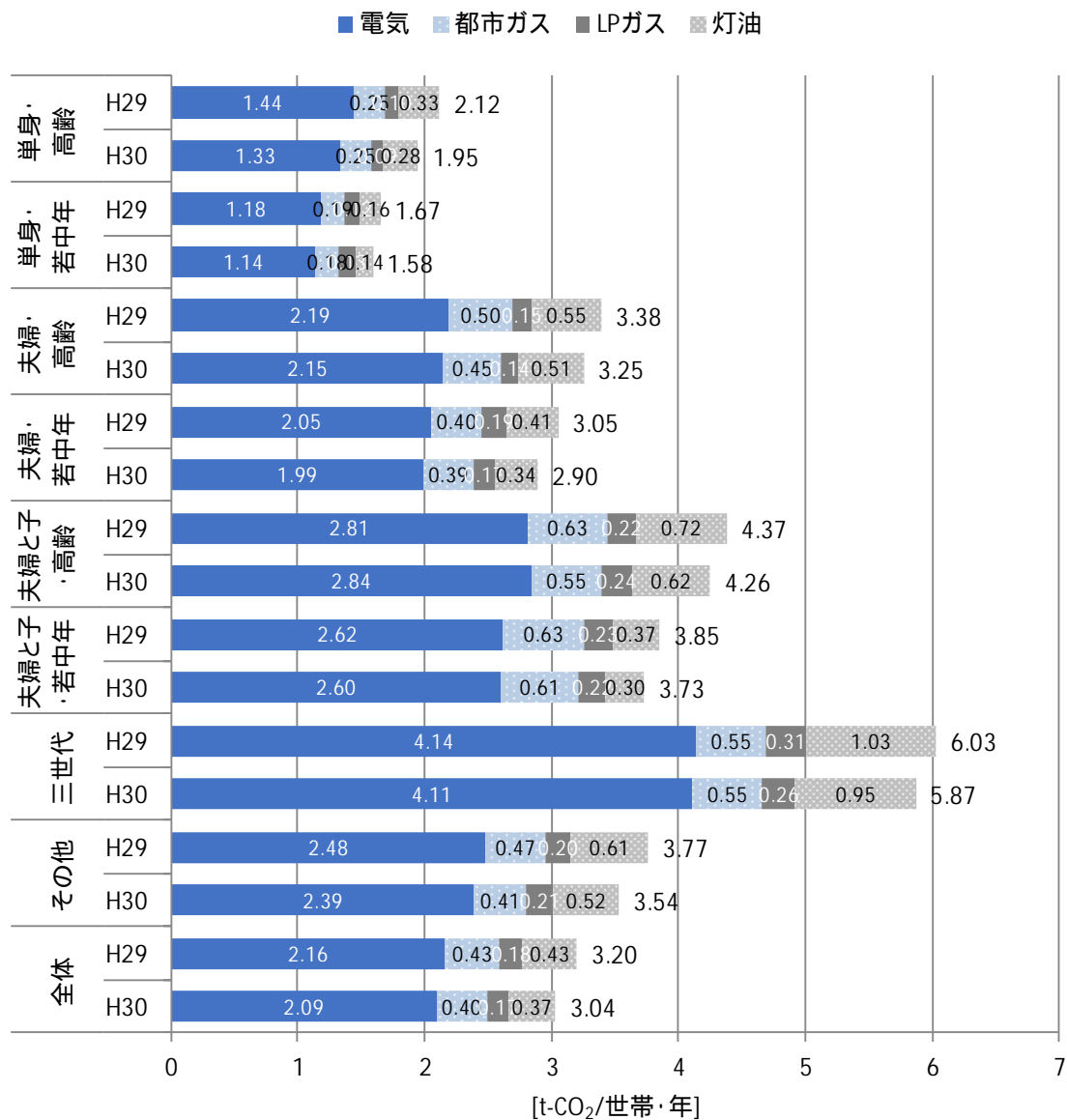


図 4 世帯類型別世帯当たり年間エネルギー種別 CO₂ 排出量

6 二重サッシ又は複層ガラスの窓の普及状況

平成 29 年度と平成 30 年度の調査結果を見ると、平成 13 (2001) 年以降に建築された住宅の半数以上に二重サッシ又は複層ガラスがすべての窓または一部の窓に設置されている。また、平成 29・30 年度の調査結果と平成 25 年に実施された住宅・土地統計調査 (総務省) の結果を比較すると、徐々に二重サッシ又は複層ガラスの設置が進み、すべての窓にある又は一部の窓にある世帯の割合が増加している。

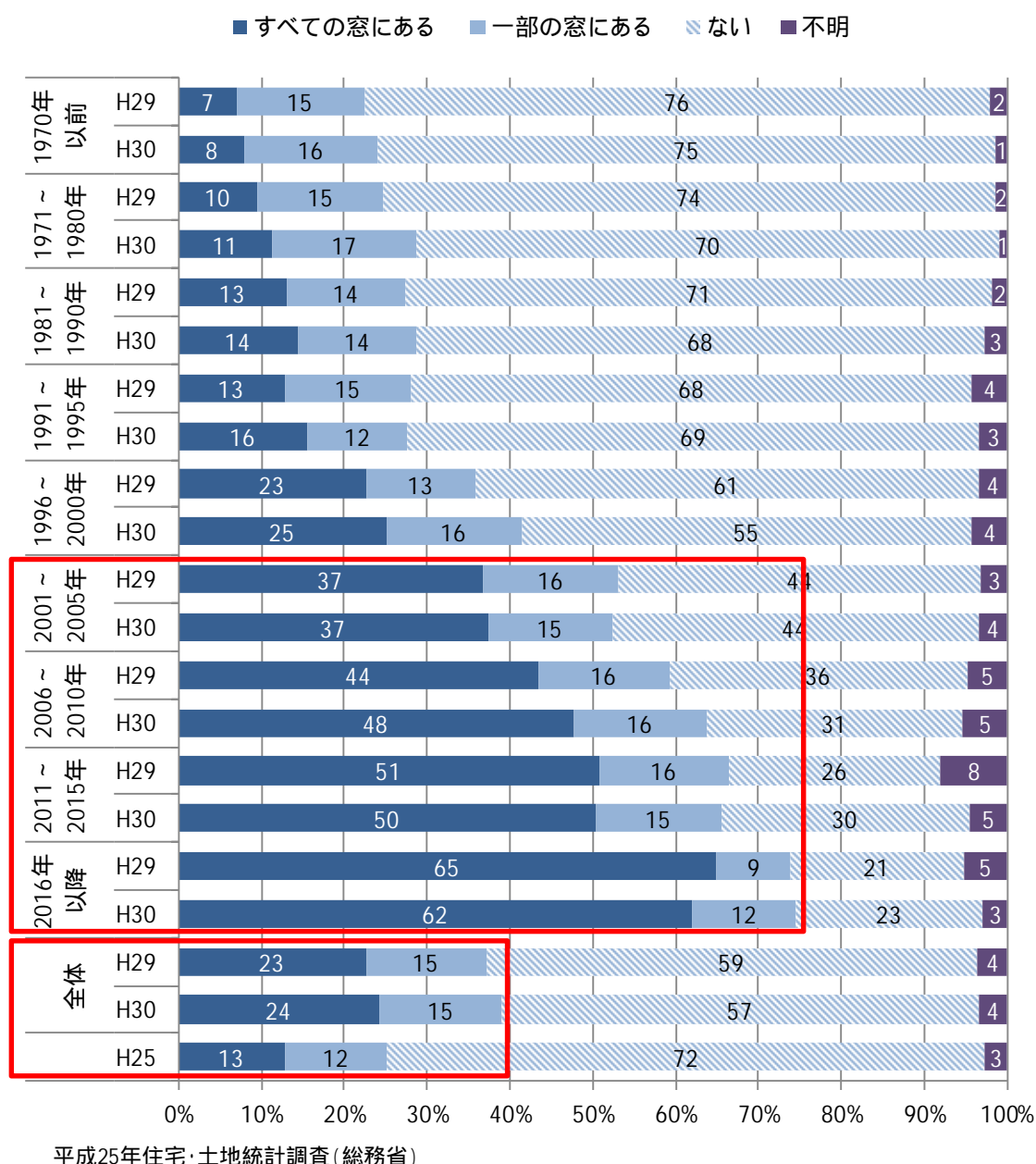


図 5 建築時期別二重サッシまたは複層ガラスの窓の有無

7 世帯類型別 冷蔵庫（1台目）の製造時期

平成29年度と平成30年度の調査結果を比較すると、平成28（2016）年以降に製造された冷蔵庫（1台目）の割合がすべての世帯類型において増加しており、最新機器への買い換えが進んでいる。

1台目とは、複数台使用している世帯の場合は、最も内容積の大きい冷蔵庫をいう。

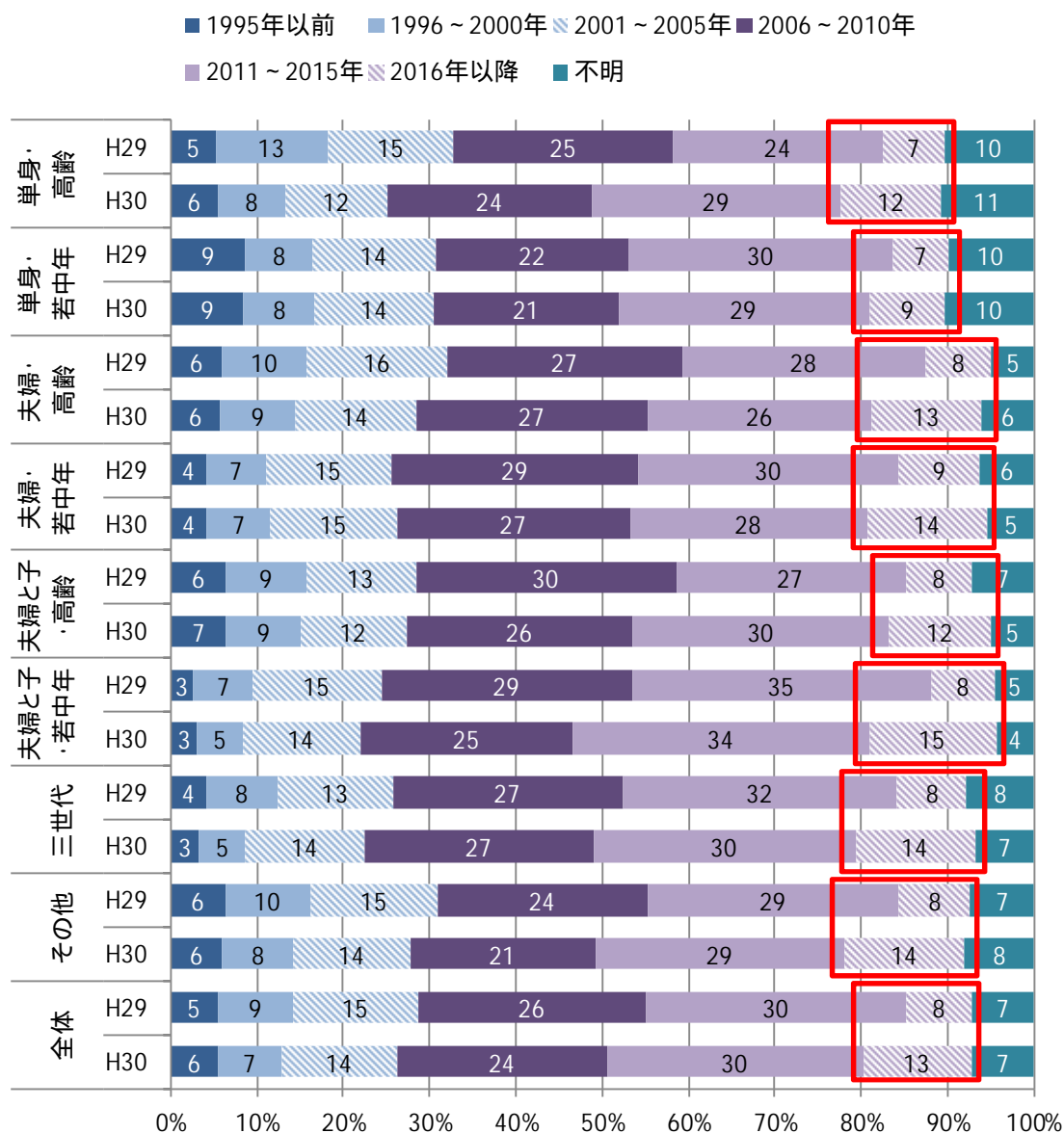


図6 世帯類型別冷蔵庫の製造時期（1台目）

8 世帯類型別 居間で使用している照明の種類

平成 29 年度の調査結果では、全体で半数以上の世帯が居間で蛍光灯を使用していたが、平成 30 年度の調査結果では、居間で LED を使用している世帯が半数以上を占めており、白熱電球や蛍光灯から LED への買い換えが進み、LED を使用している世帯の割合が増加している。

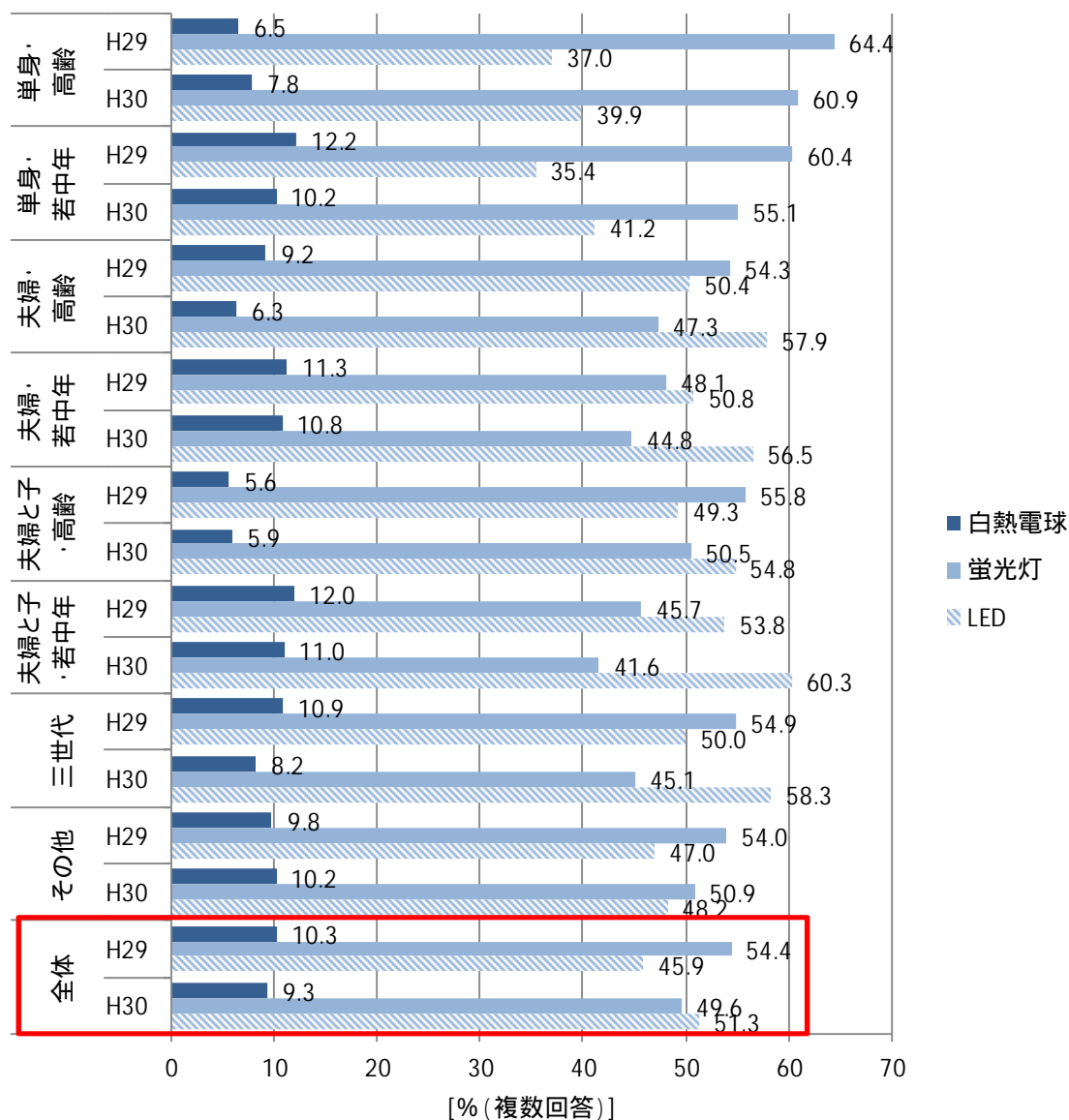


図 7 世帯類型別使用している照明の種類（居間）